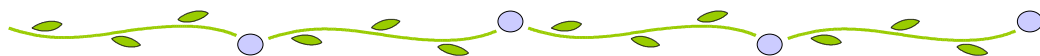


市川を調べる

編集 市川を調べる会(会長・星 一郎/事務局・木村隆一)
発行 八戸市立 市川公民館 (館長 氣田 武男)



くじら もり 鯨銛は保管されていた

轟木下 木村隆一

1. 「市川を調べる」17号〈漁光大明神〉記事の概略

「石碑をたずねて⑦」の白髭神社「漁光大明神」では、【文化三年(1806)に捕獲した鯨は非常に大きく、その尻尾からノルウェーの鯨銛が発見され、これを記念して頭と銛をここに埋めるとともに、同年6月6日には90cmほどの石碑を建て、これからの豊漁を祈願した】ということを書いた。

……以上、資料として「南部の碑は語る」を参考……

2. 音喜多市助氏と吉田満氏より

この記事を見た音喜多市助氏(市川地域連合町内会会長)から、「鯨銛は石碑の下に埋められていない」との情報に寄せられ、氏とは市川中学校の同期生で元高校教師の吉田満氏(盛岡在住で岩手民俗の会会員…**実家は浜市川のヤマジョウ**)から鯨銛関係等資料のコピーをいただくと共に、後日「鯨の銛」と墨書され、桐の箱に入れられた実物に接することができた。(長さ約42cm、穴2個、T・FRASERの刻印あり)

3. 鯨銛は吉田家(ヤマジョウ)に保管されていた

写真の鯨銛は、網元として保管してきた吉田家(肝入でもあった)から音喜多市助氏がお借りしたもので200年以上も経過しているのに錆びておらず、黒光りしている。右の文でも、「之を保存し」となっており、埋めたとは書かれていない。

「一旦埋めたものを掘り返して保管したことは100%ない」とは断言できないが、今はそれを証明できない。

よって、「現在は埋められて居らず保管されている。」

※この他、吉田満氏から提供された吉田家文書については、後ほど紹介したい。



〈文章の内容〉

文化三年六月十六日市川海岸に鯨九十九頭上り、時の庄屋・吉田源右エ門、速駕籠にて盛岡南部公に上申せし処、一頭一兩にて貰い下げとなる。大鯨の体内に銛入り居り、之を保存し、白髭神社境内に碑を建て漁光大明神として祀る。

(吉田松次郎謹記)

白髭神社の由来:文政九戌年十月十日、江戸浅草言問、白髭神社より分霊し御しを授かり、寄進して社を造り白髭社と称す。

写真は平成23年3月4日市川公民館で撮影。銛の大きさと比較するため、携帯電話を置いた。

